

審議会等議事概要

第3回 滝川市高等学校教育推進検討小委員会 議事概要

日 時	平成20年5月20日(火曜日)午後6時～午後7時45分
開催場所	滝川市役所7階 701会議室
出席者	土居委員長、後藤委員、山田委員、青木委員、渡邊委員、吉田委員、河原委員 事務局等：小田教育長、吉川学校教育課長、杉原学校教育課副主幹、 鳩山学校教育課主査、土橋学校教育課主査
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶 土居委員長から挨拶をいただいた。</p> <p>3 説明・協議 「滝川市内高等学校再編に関する検討結果報告書」の決定について ・事務局 「滝川市内高等学校再編に関する検討結果報告(案)」及び「参考資料」に基づき説明を行った。</p> <p>委員意見等 「はじめに」及び「1 検討に当たっての基本的な視点」部分について ・基本的な視点に関しては、「子どもたちにとって何が望ましいか」ということのほかに、例えば、「社会の要請に応える」であるとか、「産業の動向を見ながら」であるとか、「地域のニーズに応えながら」などといった文言が加わってはおかしいものか。</p> <p>道立高等技術専門学院が札幌へ統廃合となり、折角人材育成の芽が育ち始めた頃に、あるいは育っている時に高等技術専門学院がなくなる。また、工業高校も危ない。だが、逆に国や北海道は産業を育てようという計画がある。子どもたちのために教育があるのは間違いないことであるが、社会・産業・地域のニーズに応えながら教育計画や学校配置を考えていくことが許されるのであれば、是非こういった要素を基本的な視点に加えることも考慮していただきたいと考える。</p> <p>委員長 今ご意見のあった地域・産業・社会のニーズに応えるという内容については、報告書の結論部分で触れているが、基本的な視点の中にも含めるかどうかについては、結論までを一度検討した上でもう一度戻り総括的に検討させていただきたいと考えるがどうか。</p> <p>各委員承認</p>

「 2 検討事項」部分について

「（１）総合学科（滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合）」

- ・メリットの５番目「総合学科という新しい選択肢の子どもたちへの提供」という文章は具体的なメリットではないことから不要であるとする。

各委員承認

- ・滝川市で系列を考えると系列の細分及び特色などを出すことが難しいと考える。人文系列、自然系列、会計ビジネス系列、情報ビジネス系列などが考えられ、仮に工業高校と統合し総合学科を作ったとしても、電気系列・建築系列・土木系列などが考えられるが、色が重なってしまい特色が出ない。そういう意味ではデメリットに記載しておく必要があると考える。そういうことを考えた場合には、単科校の方がはっきりした特色が出せるということになる。

他の学校でも、社会福祉系列・介護福祉系列いろいろな系列を出してはいるが、介護福祉系列は制度改正により時間数が平成２３年から１８００時間となり今より大幅アップとなる。高校の３年間では難しい一面も出てくる。そのような意味で、デメリットに記載することが必要である。

各委員承認

- ・デメリットの下から２番目「企業において再教育を要する可能性が高くなる」は「企業において資格取得及び再教育の必要性が高くなる」という表現の方が相応しいと考える。

各委員承認

- ・デメリットの１番目に関しては、地域で要請しているものが十分活かすことができないと言う意味であれば、他の文章からみても「なじみにくい」と言うあいまいな言葉より「なじまない」の方が明確で分かりやすいと考える。

各委員承認

「（２）学科集合型校（滝川工業高等学校施設の産業キャンパス活用）」

- ・メリットの の記載はメリットとは言えないのではないかと考えることから、 を省き、共通だけにするとすっきりと分かりやすくなるのではないかと。

各委員承認

「（３）滝川工業高等学校の単科校維持による３校体制」

- ・メリットの１番下「卒業後３年間」の表現については、卒業生とはじめに言っているのに、「就職後３年間」の方が分かりやすいのではないかと。

各委員承認

「3 結論」部分について

- ・「1 検討に当たっての基本的な視点」において「子どもたちにとって何が望ましいか」ということが記載されており、この「3 結論」の中で(1)学校体制、(2)地域のための人材づくりを前提にした教育、(3)子どもたちにとって、ということが述べられている。(3)だけでは、子どもたちにとってということと地域にとってというコンセプトのインパクトが弱いように感じることから、「基本的な視点」の部分で地域にとってということを謳うことにより強調されて形が整うように考える。

教育は純粋なもので産業や社会に起因するものではないという考え方が強いのであれば別だが、地域・社会の人づくりによって子どもたちが社会人となり強くたくましく生きていくという意味からは、地域や社会の要請ということが加わってもよろしいかと考える。

- ・基本的には、人が住んで産業があってという中で、子どもがいて教育が成り立っている。これを踏まえ、地域の要請・地域の将来を考えるのは重要な視点だと思う。であれば、基本的な視点にそういったことを入れておくことは良いと考える。

委員長

子どもたちだけの問題ではなく、地域との関わりがあるということは大切なことである。また、工業高校に関しては地域の強い要望があるということが、人づくりをしていく上で重要な視点であるということであれば、基本的な視点にそういった部分を加えるということが良いか。

各委員承認

教育長

「インフラ整備」という表現はいかがか。

- ・「基盤整備」ということなのであろうが、このような文章にはあまり相応しくない気がする。
- ・「社会基盤整備」という表現の方が相応しいのではないか。

各委員承認

- ・前文の部分の「以下の結論を得ました。」という表現は、「以下の結論に至りました。」の方が適切であると考えます。

各委員承認

- ・結論において(3)は(1)(2)のまとめだが、「しかしながら」としてしまうと、打消しのような感がある。

教育長

(3)が結論であれば、「(3)」という文頭の表示はなくても良いのではないか。

- ・「(3)」という表示を抜かし、行を詰めて、文頭から「上記の(1)及び

(2)から、」と結論3行を入れるとすっきりすると思う。

- ・若しくは「(3)」ではなく、「おわりに」という形で結ぶと良いのではないか。

委員長

「(3)」については、「おわりに」という形にして、現実的に今後こういうこともという流れにすれば違和感がなくなるということで良いか。

各委員承認

教育長

(2)の最後に「工業高校の位置付けを指針の中で行うことを」とあるが、指針だけに限定しないためにも「工業高校の位置付けを明確に行うことを」とする方が良いと思うがいかがか。

各委員承認

検討結果報告書全体を通して

- ・「2 検討事項」におけるメリット、デメリットの表記に関して、体现止めかそうでない表現かに統一すべき。

各委員承認

教育長

「2 検討事項」におけるメリット・デメリットの枠内において、学校名を正式名称とした方が良いのではないか。

各委員承認

- ・最後のまとめの部分が弱いように思う。「おわりに」とするということだが、今後の生徒数の減少、社会情勢の変化によって再編を含めた一層の検討が必要とすると、北海道教育委員会の言う平成23年度の2～3学級減にどのように対応するのか、滝川市内のことを考えた場合に、工業・普通・商業のどの学科を減らすのか、3校とするのか、2校とするのかを検討しなさいと投げかけられているのに対し、今の結論だけだと、北海道教育委員会の今までのやり方でいってしまうのではないか。そうなると、この地域から滝川工業高校がなくなるという危機感が非常に強い。

委員長

6月の北海道教育委員会の計画案で平成23年度の2～3学級減に具体的に工業ということが出た場合にどうするのか、そこまでの内容が必要なのではないかということであり、今回メリット・デメリット等を検討し、滝川市としては現状では3校体制が望ましいという結論を出した訳であるが、それだけで通していけるのかという意見である。

- ・そこまでを求めてしまうとなると、今までの議論を否定してしまうこととなる。北海道教育委員会に投げかけられたときに、滝川市としては頭からどこどこを減らすということになっていくのかということによって議論を始めた部分で

あったと認識している。

- ・ 3校体制を堅持したいという我々の意思がある訳であり、これをしっかり訴えるということが大事だと考える。乱暴な言い方になるが、市場原理で生徒が少ないから学校を減らすということはおかしい。教育は今の問題ではなく先のことを考えることである。地域の将来を考える上では、今からきちんとした基盤を作っていかななくてはならない。地域ニーズ、北海道としても国としても、人づくりやものづくり、あるいは技能・技術者の養成を求めていくという流れがある。それであれば、そこに焦点を合わせてこの工業高校を守っていかなければならない。また、滝川高校や滝川西高校もそれぞれ役割を果たして地域を支えていかなければならない。3校維持であるという意思をしっかり訴えるべきであると考え。北海道教育委員会が言っている生徒数が少ない等ということに対して、こちらが迎合するのではなく、これからは主張をしながら地域を守っていくという方向が正しいのではないか。

委員長

今ご意見いただいたように、先日開催された北海道教育委員会の地域別検討協議会において、小田教育長からは、子どもたちが減ったからということだけではなく、地域の現状や空知北学区で唯一の工業高校の存続をという旨の説明をしていただいた。それと同時にそうってしまった後の対応も考えるべきではないかという意見もあるがどうするか。

- ・ 昨年の例でいくと、北海道教育委員会から提示されたものが変更したのは1件のみ。ほぼ提示されたものはその通りにされている。数の論理で、数の少ないところが停止されている。2間口になると学校維持が難しいということとなり数年で学校閉鎖されるという可能性がある。そうした場合にこの地域のものづくり産業を担う若手の人材育成ができなくなり、果たして地域の発展性はあるのかということに危惧する。
- ・ 定員を満たさないから学校をなくしていくのであれば、地方はどんどんなくなっていく。どこかでしっかりそのことを言わなくてはいけないと思う。
- ・ 3校維持を小委員会の結論としたが、どこまで強く出せるのか。現実問題として、学校を減らさないのであれば具体的に2～3間口減らしなさいということになった場合、間口を減らさないよう地域や地域の教育委員会、産業の方々、PTAで応援するしかない。それであれば、そういった方々に与えるインパクトがもう少し強くなるように、結論の最後にもうすこし強い表現があるべき。

教育長

現実問題として、市内3校維持で各学校の間口はどうするのかと問われた場合に、それぞれがまた各校で考えるのか、あるいは、滝川西高校の場合であれば、普通科と商業科とどちらをどうするのかなど様々な形状の問題も出てくる。さらに3校維持となっているのだから市立は一切考えないということになってしまえば、それでは北海道教育委員会では道立の滝川高校と滝川工業高校を統合するようになってくるということもあり得るであろうし、将来的に小規模校が3校になっていった場合には、本当にそれが子どもた

ちにとって良い教育環境になっていくのか、などということも再度どこかで検討しなくては
いけないという可能性が残ると考える。であれば滝川市はこの先未来永劫何も検討は
しないで3校維持でいくということではないという意味合いの表現の部分である。当然市
の教育委員会は滝川西高校のあり方を内部で検討していかねばならないであろうし、
先程申し上げたように北海道教育委員会が道立同士でやってしまうという手段に出た
ときにどういうあり方が良いのかということは、地域としても考えねばならないことである
と考える。そういった意味から最後の部分の表現をしたものである。一歩引いたというこ
とではなく、この結論が未来永劫変わらないということではないというものである。

委員長

非常に難しく微妙ではっきりしたことが言えないところがある。もう少し早い段階で市
民ぐるみで市内高等学校のあり方についてどうしていくのかということについて、万が一
の場合にバックアップする体制ができていれば良いが、具体的にはいつどうなるか分か
らないということもあり、まずは今回の小委員会では3校維持という結論を出したとい
うことである。

- ・小委員会というものがそういう役割のものであると考える。今回投げかけら
れた問題についてどう考えるのかということである。それをどのように維持
していくためにどうしていくのかということは検討市民会議の役割となっ
ていくのではないかと考える。

委員長

小委員会としては、どういった体制が望ましいのかという分析を行った結果3校体制
が望ましいという結論となったということである。

- ・小委員会から、役員会へ報告するにあたり、結論の最後部分「しかしなが
ら、今後も～」はやはりどうしてもネガティブな感じがある。ポジティブな
形にするには例えば、「3校体制が望ましい。今後地域が一体になって更なる
充実を図る」というような形で結び付けると前向きな印象になる。

委員長

「地域一体となって充実を図る」という内容で、結論の最後の部分を結ぶことで良い
か。

各委員承認

- ・報告書の「はじめに」の最終段落の「小委員会では、～検討を行ってまいり
ました。」という部分に慎重に検討したという重みを出すために「3回にわた
る」といった表現を加えた方が良いのではないか。

各委員承認

4 その他

小田教育長よりお礼の挨拶を申し上げた。

5 閉会

会議資料	会議次第 ・ 滝川市内高等学校再編に関する検討結果報告書（案） ・ 参考資料
------	--